

令和3年度 江戸川区立上一色中学校 学校関係者評価 報告書

| | | | |
|-------------------|---|----------------------------|---|
| 学校教育目標 | 自ら学ぶ生徒 心身を鍛える生徒 社会をつくる生徒 | 目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像 | ・保護者、地域と連携し、信頼され豊かな教育活動を展開する学校 ・自律し、国家・社会の一員としての自覚と貢献する気持ちをもった生徒 ・熱意をもって職務に専念し、確実な学力に向け豊かな教育活動を展開する教師 |
| 前年度までの学校経営上の成果と課題 | <p><成果>①学力向上に向け、ICT機器を利用し、対話的な授業への取組が増加した。②道徳教育については、議論する道徳授業が定着してきた。</p> <p><課題>① 学力向上に向けての取組を充実させる。 ②地域、保護者に信頼され地域に開かれた学校を目指す。③特別支援教育の充実を目指す。④読書科で学校図書館の活用による探究学習の充実を目指す。</p> | | |

| 教育委員会重点課題 | 取組項目 | 評価の視点 | 具体的な取組 | 数値目標 | 自己評価 | | | 学校関係者評価 | | 来年度に向けた改善策 |
|--------------|----------------|---|--|--|------|----|--|---------|---|--|
| | | | | | 取組 | 成果 | 成果と課題 | 評価 | コメント | |
| 特色ある教育の展開 | 小中連携教育の推進 | 「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実 | 「小中連携教育構想」に基づく取組の実施。感染状況を踏まえて取り組む。 | 児童の部活動交流 教科・領域別連携プログラムの実施8割 | C | C | ○教員の交流はコロナのためできなかったが、生徒の作品交流はできた。 | C | コロナの状況が見通せないが具体的な取組で評価すべき。 | コロナの感染を防止対策を講じながら、教員、生徒の交流を再開す |
| | 道徳教育の推進 | ・自分の考えをもち議論する道徳授業 ・いじめ防止基本法に基づく授業を実施 | 道徳授業の研究授業を各学年1回 研修会…3回 | 「いじめ防止」に向けた授業を1回実施する。 | B | B | ○家庭と連携する道徳は実現できなかったが、学年通信を通じて授業の様子を発信できた。 ○研究授業は、1回実施した。 | C | 議論する授業で、どのような成果が出ているかより明確にすべき | いじめ防止法の家庭への浸透を図る。 |
| 教員の資質向上 | 教員研修の充実 | ・ICTアシスタントによる校内研修の実施 ・ICTを活用した教員の授業力の向上 | ICT研修会の実施 個別相談の推進(各教科) | ICT研修会…各学期に1回 個別相談各教科1回以上 | A | A | ○校内研修は、予定通り実施できた。 ○ICT機器の活用がすべての教科で進んだ。 | B | ICT機器活用で、学力向上を望んでいます。 | 生徒のプラスに活用の推進をさらに図っていく。 |
| | 特別支援教育の推進 | ・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導と支援の充実 | 研修会の実施 SSEの定期的実施 巡回指導員との情報交換 | 特別支援が必要な生徒への支援を全員実施 | A | A | ○特別支援教室に関わる生徒への支援が細かくできた。 ○特支コーディネーターとの連携が進んだ。 | C | 保護者の理解が十分ではないかと思われる。 | 情報共有とともに巡回心理士の活用を進める。 |
| いきいきと学ぶ教育の充実 | 確かな学力の向上 | ・「確かな学力向上推進プラン」の実施や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 | 研究授業、協議会での主体的・対話的で深い学びの研修 | 補習授業を行う数学の下位層の底上げを図る。 | B | B | ○主体的・対話的で深い学びの授業作りの推進。 ●コロナ感染症防止で話し合い活動の制限による影響。 | B | 学力向上は、長く取組んできたことですが、より具体的な方策を期待します。 | 新学習指導要領に基づいた主体的・対話的な学びをさらに推進していく。 |
| | 読書科の更なる充実 | ・学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実 ・読書科ノートの活用など、探究活動、探究的な学びの充実 ・学校図書館を使った授業の充実 | 読書科の成果物作成と、計画的な読書科の取組。特に探究的な学習の良さを理解させ、問題を解決してふさわしい発表を経験させる。 | 3年生は3年間の集大成、卒業研究完成、文化祭で展示 1,2年生は学校図書館での調べ学習を最低2回実施する。 | B | B | ○1年生調べ学習新聞作成 ○2年生卒業研究ワークシート完成 ○3年生の卒業研究の制作、発表。 ●学校図書館の授業での活用が少なかった。 | B | 来年度から司書の配置があるようだが、図書ボランティアと連携し、充実を図っていただきたい。 | 探究活動・調べ学習を様々な教科で学校図書館資料をipadと併用しながら使い、計画的に進めていく。 |
| | 体力の向上 | ・体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上 | 授業前の上中トレーニング(5分)の実施 | 授業前の上中トレーニングを毎時間実施 | A | A | ○毎時間のトレーニングの実施による運動意欲の向上 | A | 素晴らしい取組ですので、健闘を祈ります。 | 体力テストの結果を分析してさらなる改善を図る。トレーニングは継続 |
| | オリパラ教育の推進 | ・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実 | 各教科で取り組み、パラリンピック観戦を実施 | 各教科で最低1回以上。パラリンピック観戦の実施を通してレガシーを学ぶ。 | B | B | ○体験活動(空手)の実施 ●講演会の中止 | B | 五輪も見学中止になりましたし、問題・課題もあつたように感じます。 | オリンピック・パラリンピックのレガシーを継承する取り組みを継続す |
| | 外国語教育の推進 | ・授業力の向上とALTの効果的な活用 | 1対1の会話の機会の増加 ALT自身にも効果的な対話プランを提案させる。 | ALTとのインタビューテストで8割が合格(継続) | B | B | ○ALT授業の計画的な実施 ●コロナ禍におけるインタビュー活動の制限 | A | ALTの対話プランは効果があると思います。 | ALTとの交流の場を増やして英語に対して抵抗のない生徒を育成 |
| | 健全育成に向けた取組の強化 | ・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用 | 学校生活全体でいじめの未然防止。個に応じた対応。いじめ防止基本法に基づき職員全体で共通理解を図る。 | アンケートを各学期実施している。いじめの早期発見に取り組む。組織的解決を目指す。 QUの活用(年2回) | A | B | ○アンケートも計画通り実施できた。 ○学校生活全体で早期発見に取り組めた。 ●QUの活用が不十分だった。 | A | いじめ防止は学校方針でもよろしく願います。危機管理対応でもありますので、しっかり取り組んでください。 | 未然防止にさらに力を入れる。メールワークを利用して教員との会話の機会を増やす。教科、道徳などあらゆる活動で人権意識を育成 |
| 相談体制健全育成の充実 | 保護者との信頼関係の構築 | ・学校と家庭が共通理解して協力して生徒を育成 | ・三者面談で三者が納得できる面談の実施(年2回) | 満足度について保護者アンケートで8割以上 | A | B | ○三者面談は計画的に行えた。 ●保護者の満足度は7割5分であった。 | A | 先生方が時間外となることもあるようです。ご苦労に感謝します。 | 保護者対応をさらに丁寧に行う。生徒のために同じ姿勢になれるよう関係を作っていく。 |
| | 生徒理解 | ・生徒と担任の良好な人間関係の構築 | 個人ノートのやりとり | 個人ノート毎日実施 | A | A | ○個人ノートのやり取りによる信頼関係の構築。 | A | 二者面談の取組など、学校の独自性の現れに期待しています。 | 個人ノートのやり取りは継続して、より信頼関係を深めていく。 |
| その他 | 開かれた学校と学校評価の充実 | ・学校関係者評価の実施と結果の公表 ・学校・学年通信とHPの充実 | 地域、家庭に定期的に通知 | HPの学校日記は週1回以上 | C | C | ○学校、学年からの情報発信。 ●HPの更新の充実 | A | 学校からの毎月の通信により安心させられます。厳しい状態のときこそ工夫を期待しています。 | 教員がHPについて操作を学び、気軽にアップできる技術を身につける。 |
| | 部活動の活性化 | 生徒の自主的・自立的な活動を促し、心身の健全育成の実施 | 全職員の参加、部活動保護者会の実施。ガイドラインを守った活動を目指す。 | 文部両道の定着を保護者・生徒アンケートで8割以上(継続) | A | A | ○生徒の部活動への自主的な取組とコロナ防止対策 | A | 先生の負担を減らす上で外部指導者の存在は大きい。個人的な取組では人は集まらない。資格が必要であればなおさらであ | 生徒の自主的・自立的な活動をさらに促していく。 |